

厳冬期の八ヶ岳主脈縦走記録



赤岳山頂にて 左から金井、永野、杉本

期日：2011年1月21日(夜)～23日

場所：八ヶ岳(硫黄岳・横岳・赤岳)

メンバー：金井良一(L)、永野嗣宜、杉本伸一(記録) 敬称略

コースタイム

1月21日(晴) 21:30 横須賀発

1月22日(晴) 1:30 美濃戸口着(幕営)－8:00 美濃戸口発－11:20 赤岳鉱泉着
12:00 赤岳鉱泉発 14:15 稜線－15:00 硫黄岳－15:30 硫黄岳石室着(幕営)

1月23日 5:45 発－6:55 横岳－8:15 地藏尾根分岐－9:25 赤岳－11:05 行者小屋－
14:00 美濃戸口

今回の山行は、新人冬山体験山行として八ヶ岳(硫黄岳・横岳・赤岳)を縦走。

21日夜、横須賀を出発。懸念されていた渋滞も殆ど無く、順調に中央高速を経て美濃戸口に到着。幕営後、明日からの山行の成功を祈り、缶ビールで乾杯。



1. 美濃戸山荘にて(左から杉山、金井)



2. アイスクライミング人工練習場

22日朝食後、美濃戸口出発。天気も良く、風も穏やかで、少し汗ばむ程の好天に恵まれ順調に進む。美濃戸山荘から北沢を通り赤岳鉱泉へ向かう。赤岳鉱泉では、アイスクライミングの人工練習場があり、個人的に次回にでも挑戦したいと思った。赤岳鉱泉でアイゼンを装着し、硫黄岳を目指す。雪が締まっており、歩きやすいのだが、登山道を進むにつれ、私がバテてきた。樹林帯を抜けた辺りから気温も下がってきて、風も強くなってきた。



3. 横岳から地蔵尾根分岐までの鎖場を超えて



4. 横岳から地蔵尾根分岐までの急な下り

赤岩の頭で小休止。明日通る縦走路が一望できる。

赤岳の山頂だけガスで見えないが、夢にまで見た冬の赤岳を、間近で見られて闘志が湧いてきた。硫黄岳目前の登りで、またバテてきた。少し歩いては、立ち止まり呼吸を整える。何度か繰り返すうちに、平らな丘の様なところに出た。硫黄岳の山頂である。随分と広く滑らかな山頂だと思った。記念撮影後、幕営地の硫黄岳山荘を目指し進む。ここからは、私が先頭で小屋を目指した。

ほぼ、予定通り幕営地にて幕営。私にとって厳冬期の幕営は初めてで、2000mを越える冬山の稜線での幕営である。全てが初体験となった。

風が強く、厳しい寒さの中、天幕に入り込むが、意外と寒さは変わらない。湯を沸かし、お茶を入れる。この時ほど、お茶が美味しいと感じたことはない。寒い時は鍋が一番と言う事で、今夜の食事は、鶏鍋である。食後のデザートは、パイナップル缶でしめる。

まだ早い時間だが、シェラフに潜り込む。天幕の内側と、シェラフカバーは霜が付いて真っ白だ。本



5. 赤岳への登り(この時点では展望はないが)



6. 赤岳山頂手前(徐々に明るくなってきた)

で読んだ事はあるが、実際に経験すると結構辛いものだった。
明日の為に眠ろうとするが、なかなか寝られない。そのうちトイレにも行きたくなる。この吹雪の中、外に出たくない。膀胱が悲鳴を上げるまでは、我慢することにした。

何度か時計に目をやるが、故障したのかと思うほど、時間が進まない。

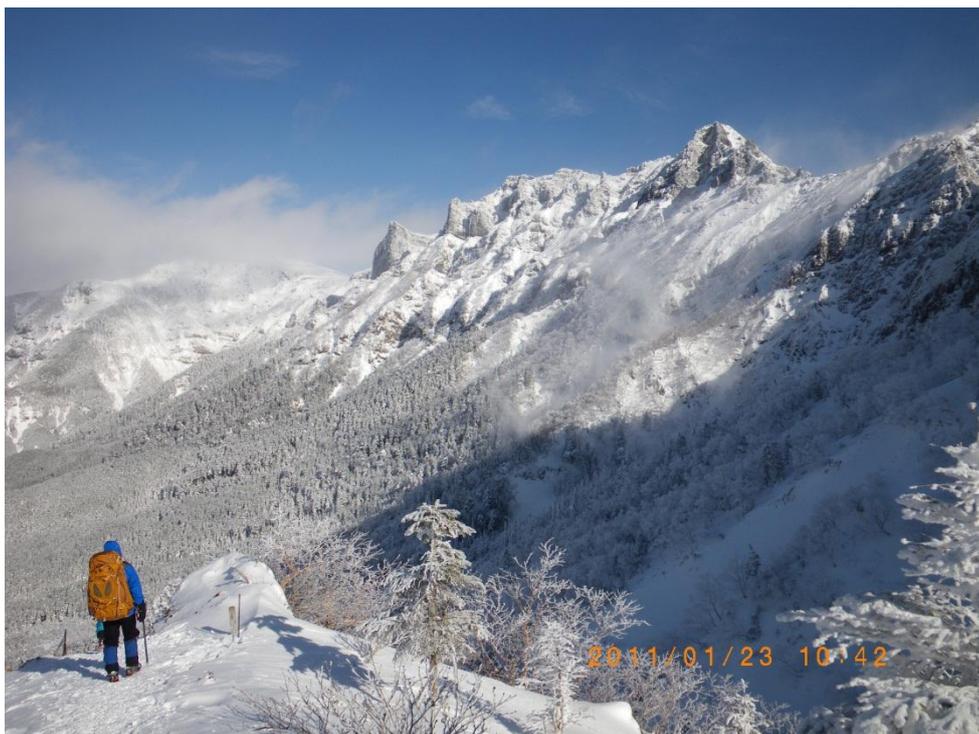


7. 赤岳山頂に立つ金井、杉本①



8. 赤岳山頂に立つ金井、杉本②

23日は3時起床。お茶を沸かし、うどんを食べ夜明け前に行動開始。キャップライトを灯し、強風の吹くなか横岳を目指す。「山屋らしく格好良いなあ」と悦に浸る間もなく時々、体が振られる程の強風が吹く。「これでも行くのかな？」と先頭に行く金井さんを見るが、金井さんのキャップライトは、どんどん先へと進んで行く。真っ暗ななか、金井さんのライトを見失わない様について行く。横岳に近づくと岩場が多くなり、慎重に進む。アイゼンを使うのは、今日で3回目。つま先を岩に引っ掛けない様に慎重に足を運ぶ。横岳、地藏尾根分岐を経て、赤岳を目指す。地吹雪で、先が良く見えない。気が付くと赤岳展望荘に着いていた。ここからがキツイ登りとなる。全体的に雪が少なく、岩が露出している箇所が多い。慎重に進むが、やはりまたバテてきた。歩いては止まるを繰り返す。ようやく赤岳山頂の小屋に着いた。この頃には、今までの風が嘘のように止み、ガスが晴てきた。赤岳山頂手前で、先頭の金井さ



んが、「杉、先に行け！」と先頭を譲ってくれた。夢にまで見た赤岳に来れた喜びと、金井さんの計らいに目頭が熱くなった。山頂で記念撮影。周りに目をやると、ガスが晴てきて、北岳の雄大な姿、甲斐駒、北アルプス山群、富士山まで見えてきた。日本の主たる山々が見渡せる展望台のようである。文三郎尾根を下りながら、バリエーションルートを見せてもらい、次は冬期登攀を目指したいと思っ

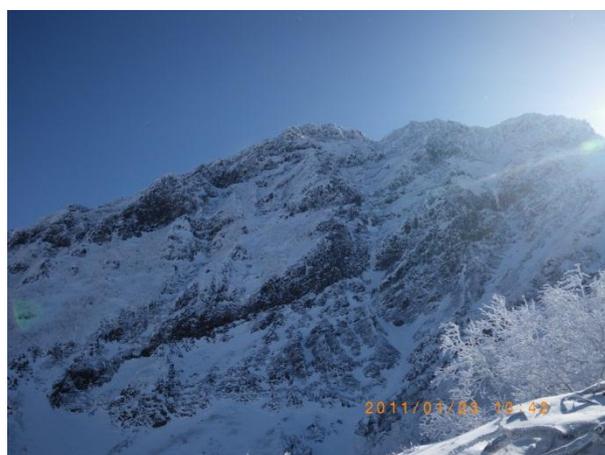
9. 今日歩いてきたルートを思い返す(すっかりいい天気になりました)

外す。行者小屋から南沢下り、美濃戸山荘を経て、美濃戸口に予定通り到着。

帰りは、もみの湯にて汗を流す。暖かい温泉につかり、身長が 2,3cm 伸びた様な感覚になる。入浴料も¥500-と手頃で良い温泉でした。

今回の新人雪山体験山行は、私が冬の赤岳に登りたいと言った事を、先輩方が覚えていて下さり、八ヶ岳縦走を企画したと聞きました。金井さん、永野さんに感謝しています。

これからも、しっかりと荷を背負える様に、基礎体力を付けて、強い山屋になりたいと心から感じた山行でした。



10. 赤岳の登攀ルート